

大学入試改革フォーラム ～高大接続をテーマに～

■ 事例報告

鈴木典比古（国際教養大学理事長・学長）

きょうは時間が限られていますので、本学の特徴と入試について申し上げたいと思います。本学は、入試の種類としては16種類の入試を行っており、多様な潜在力を持った学生を望んでいます。本学は、国際教養学部という一つの学部だけを持っている単科大学ですが、リベラルアーツという「全人力」を涵養するプログラムを有しており、それに志願してきてくれる学生のうち多様な潜在力を持っている学生を選抜するというのが、まず、最初に来るわけです。国際教養学部なので、グローバル人材といいますか、グローバルな視野と行動力、リーダーシップを持って活動していく人材を選抜するということ。もう一つは、英語ですべての授業を行っているのです、最初の1学期ぐらいは戸惑いや、追いついていくことに非常に苦労するわけですが、その山を越えれば、英語で授業を受けることやそれをリードするということがあまり苦にならなくなり、いつの間にか自分のものになっています。リベラルアーツと、グローバル、英語、その3つが本学の教育の基本となっています。そのための入試ということが言えると思います。



本学には「5つの特徴」があります。1点目はすべて英語が基本。1学年が175名という非常に小さな大学でありまして、だいたい一つのクラスの平均が18名。少ない場合は、5名ぐらいで授業を行っているので、授業の中で隠れる場所がない。それどころか、自分が率先して授業に参加して先生と共に授業を作りあげていかなければ、会話や対話が途切れてしまう。90分や120分の授業がスムーズにいかない。すべての授業が英語で、少人数で、対話式で行うという非常に厳しい状況におかれます。そのためには、どうしても予習復習が必須になり、予習をするためにはシラバスが必要ということで、シラバスをもとに学生たちが予習を行い、クラスを先生と共に作り上げていくということが特徴の一つです。2点目は、1年間の海外留学が義務化されているので、だいたい2年の終わりから3年にかけての1年間で1人が一つの大学に留学する。海外に行っても1人でやっていくという海外留学を義務化しています。海外留学のためには、GPAが2.5以上、英語のTOEFLの点数が550点以上という条件をクリアしないと留学できない。そして、留学が卒業の要件になっているので、留学できないと卒業できないということで、これは自慢すべきことではないが、4年間での卒業率はだいたい50%です。学生たちはそれでも、しっかりした授業を受けて成績を取って、留学をして卒業するんだということで、4年半、あるいは5年、5年半かけて卒業していく。それを自然として勉強するというのを第1に考える雰囲気があります。

3点目は、多文化共生のキャンパスライフ。1年生は全寮制で、留学生とともに過ごしているのです、24時間英語漬けという状況が通常です。4点目は、きめ細やかな進路支援を行っています。留学を終えて帰国してから、就職の準備に入りますが、留学中にも、アドバイザーの先生とスカイプ、メール等の利用によって、進路や授業の相談が盛んに行われています。

そして、2014年に「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択されました。この中では、4つのプロジェクトを進行させています。「国際ベンチマーキング」、「世界基準のカリキュラム」では本学のカリキュ

大学入試改革フォーラム ～高大接続をテーマに～

ラムを世界基準に合わせなければならない必然性がベースにあります。例えば、3年生は海外に出ていますので、1年、2年、4年生は本学の学生ですが、3年生のところはだいたい同じ数の留学生を受け入れています。ですので、1、2、4年生は本学の学生、3年生は海外からの留学生という構成であるため、カリキュラムはスムーズでシームレスでないといけません。本学から海外に留学した学生が戻ってきても、そのままスムーズに戻る。海外から留学してきた学生も、帰国後授業に参加できなければなりません。取得単位も、学生は海外の大学在学中にも約30単位取得を求められます。留学先で30単位を取って戻ってくるのは非常にハードルが高いため、4年間で卒業できない場合も出てくるが、これも、学生たちは当然視している面があります。

「日本の英語教育を改革」は、小中高生に対して、本学の学生が英語で英語を教えるプログラムと小中高教員への英語教授法指導プログラムがあります。最近では、県外の高校生が修学旅行の一環で本学に来て、英語で英語の授業を受けるという例もあります。

「テーマ別ハウス群」ですが、学生は24時間英語漬け、そして、90%ほどの学生は、キャンパス内、キャンパスに隣接した施設で暮らしているので、将来どういうキャリアや人生を描いているかを学生たちからアンケートをとって、将来こういうふうになりたい、こういう勉強をしていきたいという共通の関心を持った学生が学生寮で共同生活をして勉強するということが進んでいます。この4つのプログラムがワールドクラスリベラルアーツカレッジに脱皮していくための本学の取り組みであります。

「5つの特徴」のうちの1つ本学の入学試験ですが、大きく分けて、「特別選抜試験」と「一般選抜試験」があります。今年から来年にかけての試験の月別をリストにしたものを表示しています。9月には特別選抜試験を行いました。これはグローバル・セミナー入試といって、秋田県内の高校生を対象にした入試で、5月あるいは8月の本学での2泊3日のセミナーに参加することで受験資格を得ることができ、9月の試験という流れです。それから、11月には来年の4月入学を目的として、推薦入試、あるいはAO、IB、高校留学生入試、外国人留学生入試、編入学転入学入試、ギャップイヤー入試などが計画されています。1月に大学入試センター試験があります。2月には、一般選抜試験のA日程、B日程を行い、3月に一般入試のC日程、9月に入学する外国人留学生向けの入試、翌8月には特別選抜試験の9月入学も行っています。このように、9月、11月、1月、2月、3月、8月と、入学試験が連続して行われています。内容を説明すると複雑なものがありますが、基本的には、英語をちゃんと読み書き、話す、聞く4技能があるか、それから、論文を課す、面接を行う等で、リベラルアーツを行っていくために、潜在的な能力があるかどうかを評価する試験の内容となっています。社会人入試もあり、23歳以上の社会人を対象とした制度です。ギャップイヤー入試は、4月から8月までの5か月間、この入試で合格した学生は国内外でボランティアをしたり、自転車で日本一周を試みたりといったことに挑戦しています。本学は英語だけという印象を持っているかもしれませんが、非常に活発な行動的な学生も多々いまして、留学生と共同生活をしているので、国際性、グローバルな状況の中でリーダーシップを発揮するといったことも学生の特徴として見ることもできます。

一般選抜は4月入学を基本としていますが、A、B、C日程があり、センター試験の他に個別試験を課し、2つの試験の総合で合格を決める。他の国公立大学との併願が可能、全国7か所で受験が可能のほか、英語資格等保持者特別措置制度があるとか、一般選抜試験で合格に至らなくとも、優秀な成績者は1年間の在籍を認められ、一定の成績を取れば、2年に編入できる「特別科目等履修生制度」もあります。

大学入試改革フォーラム ～高大接続をテーマに～

最後に、本学は、英語や海外留学ということで特色がある大学ですが、高校生としては、まんべんなく勉強をして来てもらいたい。新聞やニュースを問題意識を持ちながら読み、社会への関心を持つ。とくに日本語でも英語でも、書く練習、作文力、文章力の練習をしてきてもらいたいというのが、我々の希望です。そして、大学の先生でも、高校生にいろいろなアドバイスを送ることができるので、先生を多いに利用してもらいたいと思っています。